

刊行にあたって

今回、デンタルダイヤモンド社より本増刊号の編集委員を依頼され、浅学菲才の身ながらもお引き受けした。COVID-19が猛威を振るうなか、Web会議を用いて、経験豊富な木津康博先生、樋口大輔先生とともに、アカデミックでありつつも一般開業医の皆様の臨床に直結する内容を心がけて各項目を検討し、各テーマにマッチした臨床家に執筆をお願いすることで、チェアサイドで読んですぐに役立つ内容を目指した。

序章では、わが国におけるインプラント治療の碩学である小宮山彌太郎先生に、「インプラントを巡るトラブル」について論じていただいた。

1章では「術中に生じたトラブル」として、出血や急変、器材トラブルなど、まさにいま診療室で対処しなければならないトラブルへの対処方法が詳述されており、万が一のときに対応できるものとなっている。

2章では「術後に生じたトラブル」として、痛みや腫れ、知覚異常、インプラント体の除去のポイントなどが解説されており、その後の患者トラブルの防止に役立つ内容となっている。

3、4章では「補綴トラブル」への対処方法が解説されている。3章では、インプラント体の破折やインプラントシステムの特定法などの「機能面」にフォーカスし、4章では、ジンジバルラインや歯間乳頭を含む歯周組織の問題など、「審美面」でのトラブルについて解説されている。

5章では「周囲組織のトラブル」として、インプラント周囲粘膜炎やインプラント周囲炎への対応が解説され、6章ではこれらの「トラブルを予防するためのメンテナンス」について、歯科衛生士らの視点を交えて考察されている。

7、8章では、現在から未来に向けて問題視されつつあるトラブルへの対応法について解説されている。7章では「経年的変化への対応」として、訪問診療におけるインプラントトラブルの対応法など、人生100年時代を見据えた内容となっており、8章では「法律および契約上のトラブル」として、医事紛争・係争を未然に防ぐポイントと実際にそこに至ったときの対処法が解説されている。

各章ごとに各分野のエキスパートを選抜し、執筆いただいただけあって、臨床に即した生き活きとした内容になったと自負している。トラブルは防ぐべきであるが、避けられないものもある。本増刊号がインプラントトラブルの“転ばぬ先の杖”となることを願ってやまない。

2021年6月

編集委員 竹島明道